

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
の中に含まれております

## 3360号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>



夕照に染まる下赤阪の棚田 (大阪府千早赤阪村)

### もくじ

随情情情	フ活
想報報報	ォー動
耐雪梅花麗(ゆきにたえばいかうるわし)	星副会長が「衆議院選挙制度に関する協議会(第2回)」に出席
町村かわら版	伊豆の玄関口で地域資源を活用したまちづくり 静岡県函南町
町村ご当地キャラじまん	まちむらの魅力発信
愛知県設楽町長	土屋 浩
土屋 浩	(12)
	(10)
	(8)
	(7)
	(3)
	(2)

### コラム

## 見渡せない情報

東洋大学国際学部国際地域学科教授 沼尾波子

デジタル化の進展にともない、紙の資料を減らし、データで保管・共有する流れが急速に広がっている。自治体でも、文書管理や起案、決裁などをオンライン上で行う仕組みが一般化しつつあり、「ペーパーレス化」や「DX推進」が重要な課題となっている。検索や共有の容易さなど、その利便性は大きい。だが一方で、情報が見渡しにくくなるという課題も生じているように感じる。

近年、大学では、情報整理がうまくできず、結果として単位取得に苦労する学生が少なくない。大学では通常、一学期に十科目以上を履修し、それぞれにテキストや配布資料、レポート課題等がある。それ自体は昔から変わらない。だが現在は、それらの情報のほぼすべてが一台のパソコンやタブレットの中に収められている。

もちろん、端末一つで必要な情報をどこでも閲覧できる点は便利である。しかし、そこには課題もある。紙の資料であれば、机の上に積み重なった冊子や配布物を見ることで、「これだけ読まなければならぬ」「これだけ課題が残っている」と作業量を感覚的に把握できた。一方で、データ化された情報は画面の奥に埋もれ、全体像が見えにくい。自分が抱えている課題や締切、優先順位を把握しつ

らくなっているのである。

さらに、以前は大学の掲示板を見れば課題や休講情報を一覧できたが、現在は授業ことこのウェブページに自らアクセスし、必要な情報を探さなければならない。情報の整理や収集、管理が得意でない学生にとって、これは大きな負担となる。

これは自治体の仕事にも通じる。電子決裁や庁内システムの導入が進む一方で、必要な情報が複数のシステムやフォルダに分散し、「どこを見ればよいかわからない」という状況も生じている。担当者しか保存場所を把握していない文書もあり、異動時の引き継ぎで苦労することもある。

デジタル化は、本来、業務を効率化し、情報共有を円滑にするためのものである。しかし、運用を誤れば、情報を「ブラックボックス化」し、かえって全体像を見えにくくしてしまう。特に職員数の限られる町村では、一人ひとりが多くの業務を担う。だからこそ、単に電子化を進めるだけではなく、誰が見てもわかり、引き継げる形で情報を整理・共有する視点が、これまで以上に重要である。あわせて、一覧性の乏しい情報管理に苦手意識を持つ職員が、安心して業務を進められるような支援や工夫も求められるだろう。

### 写真キャプション

大阪府内唯一の村、千早赤阪村は、武将楠木正成の生誕地として知られる。正成ゆかりの下赤坂城跡の裾野に広がる「日本の棚田百選」にも選ばれている。春から夏にかけては、夕陽を映した水面が幾重にも連なり、山里は静かな輝きに包まれる。

# 星副会長が「衆議院選挙制度に関する協議会（第2回）」に出席



星副会長（福島県下郷町長）は令和8年5月12日、「衆議院選挙制度に関する協議会（令和8年第2回）」に出席した。本協議会は、衆議院の選挙制度について、人口減少や地域間格差が拡大している現状を踏まえつつ、立法府の在り方を含め、議員定数や地域の実情を反映した選挙区割りの在り方等に関し、国会において抜本的な検討を行うことを目的として衆議院議長の下に設置されている。

今回は、選挙制度のあり方について、地方三団体への意見聴取が行われた。

星副会長のほか、全国知事会の平井伸治副会長（鳥取県知事）、全国市長会の水谷洋一地方創生対策特別委員会委員長（北海道網走市長）が出席した。

はじめに、地方三団体から意見を述べた。

星副会長は、衆議院の選挙制度について、地方の定数が大きく減少することにより地方の声がこれ以上国政に届かなくなることへの強い危機感を示した上で、当協議会において丁寧な議論が行われることへの期待を示した。また、参議院選挙についても、都道府県ごとに集約された意思が国政に届けられるよう、合区解消に関する議論の進展を求めた。

さらに、選挙事務の執行に関して、本年2月に行われた「解散総選挙」が非常にタイトな日程であったことから、町村では、短期間で準備を迫られ、投票所設置や人員確保など、事務負担が大きかったことを説明し



▲星副会長

たほか、選挙当日の投票時間や期日前投票所の開閉時間について地域の実情に応じて弾力的な運用を可能にすること、期日前投票の際の宣誓書を廃止することなど、事務執行面での柔軟化・効率化を求めた。

加えて、投票率低下への対応として主権者教育や情報リテラシー向上の重要性を指摘した。

その後、質疑応答が行われ、閉会した。

## フォーラム



▲役場庁舎からの町並み

## 静岡県 函南町

かななみちよう

### 伊豆の玄関口で地域資源を 活用したまちづくり

静岡県東部に位置する函南町は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた人口約3万6千人のまちです。町名は「函嶺（箱根の別称）の南」に由来し、この名のとおり、北には箱根や富士山を望み、南には伊豆半島や丹那盆地をはじめとする緑豊かな風景が広がります。さらに、町内には一級河川である狩野川が流れ、名水で知られる柿田川水系を水源にするなど、水資源にも恵まれています。

また、本町は、東部地域の中核都市である三島市と国内有数の観光地である熱海市の間に位置し、JR東海道線の函南駅は両隣駅に新幹線停車駅を有するという珍しい立地です。首都圏へのアクセスや近隣市町へのアクセスにも優れ、これまでも近隣中核都市のベッドタウンとして発展してきました。



平成26年の伊豆縦貫自動車道塚本ICの開通を契機に、広域的な交通ネットワークの向上や中心市街地の活性化など、観光・産業の両面において新たな発展の基盤が整いました。「住む」訪れる」の双方に適した函南町は、まさに「伊豆の玄関口」としての役割を担っています。

#### 1. 地域に根差した農業

##### ▼函南西瓜

温暖な気候と田方平野の肥沃な土壌を活用し、地域の特色を活かした多様な農産物が生産されています。中山間地で生産しているのが函南西瓜。糖度が高く、新鮮な証拠であるツルつきで、鮮度にこだわっています。④（マルヒラ）シールが目印のこのスイカは、シャリシャリとした食感とスイカ本来の甘

フォーラム

さを味わうことができます。函南西瓜は出荷数がシーズン約4万玉と少なく、全国には出回りませんが、その美味しさを求め毎年買いに訪れる人やふるさと納税の返礼品としてリピートしてくださる方も多くいます。全国には有名な産地のスイカもありますが、ぜひ一度、味わっていただきたい逸品です。



▲函南西瓜（通称：マルヒラ）

▼農業高校との連携

平野部では稲作とともにトマトの栽培も盛んです。令和7年11月、新たな取り組みとして函南町産100%のトマトを使用した「とまびよチキンカレー」が商品化されました。イメージキャラクターの募集からお土産アイデアの募集、レシピの開発・完成に至る

まで、町内の小中学校と県立田方農業高等学校の生徒の協力により行われました。

農業の価値や将来性が改めて注目されている今、農業高校は少子化にあっても高い人気を維持しています。人口減少による担い手不足により農家数は減少傾向にありますが、町内に農業高校があることは伝統のある農業を後世につなぐ大きな強みであり、将来を担う子ども達の若い力や民間企業のアイデアを活かした取組はまちの活力となっています。



▲完成試食会で商品のお披露目

2. 町の歴史と共に歩む酪農

函南町の基幹産業の一つが酪農です。約140年の歴史がある函南町の

酪農は、丹那盆地を中心に、酪農家と地域・行政が長年にわたり連携し、支え合いながら築き上げてきました。その歴史の象徴ともいえるのが「畜産共進会」です。酪農家が丹精込めて育てた乳牛の資質を競い合うこの取組は、明治時代から続く酪農の技術向上と品質確保に大きく貢献してきました。令和7年には記念すべき100回目の開催を迎えましたが、100回を超える共進会は全国的にも稀であり、函南町の誇れる歴史です。

そして昭和30年、地域の酪農家たちの「自分たちの家族に安心して飲ませられる牛乳を」という思いから、「丹那牛乳」が誕生しました。酪農家と工



▲部門別に牛を審査する様子

場が近く、搾りたての生乳を短時間で加工できるのが最大の特徴で、高い鮮度と品質を維持しています。県東部地域の学校給食にも採用されるなど、地域内外で長く愛され、今や函南町の顔ともいえる存在となっています。

▼函南ブランド

町では、丹那牛乳をはじめとする自慢の逸品を「函南ブランド」として認定しています。令和8年4月現在64品が認定され、認定化により販売を支援するとともに、ブランドの情報発信を通じて地域資源の活性化を図り、観光資源に結び付けることでまちの魅力向上につなげています。



▲長く愛される丹那牛乳

## フォーラム



▲建設中の丹那トンネル

## ▼丹那盆地

市街地から熱海市に向かう途中に広がる、自然と酪農が調和した魅力あふれる地域。周田を山々に囲まれた穏やかな盆地内は信号一つなく、静けさの中でゆったりとした時間が流れる情景も魅力です。

昭和9年に開通した東海道本線の丹那トンネル（三島―熱海間）は難工事として知られていますが、この丹那盆地の地下に丹那トンネルが通っているということはあまり知られていません。盆地内には、第3セクターとして整備された、酪農振興のための体験型施設「酪農王国オラッチェ」があります。動物とのふれあいやバターづくりなど

の体験を通じ、酪農の魅力を身近に感じることが出来ます。丹那牛乳を使用した乳製品や加工品の販売も行われ、地域資源の活用と地産地消の拠点としての役割も担っています。

また、隣接する別荘地には、この豊かな自然環境と首都圏へのアクセスの良さを求める移住相談が年々増加しています。働き方の変化によりテレワークが広がり、ゆとりある暮らしと仕事を両立できる環境が、このエリアの選ばれる理由の一つです。

## 3. 地域資源を活かした交流拠点

## ▼伊豆ゲートウェイ函南

地域資源を活かした交流拠点として人気を集めているのが、「道の駅・川の駅 伊豆ゲートウェイ函南」を中心としたエリアです。伊豆ゲートウェイ函南は、PFI手法を活用して平成29年に供用開始した施設で、伊豆縦貫自動車道のICに隣接し、多くの来訪者を迎え入れる玄関口となっています。道の駅は、防災機能を充実させた観光施設で、伊豆の情報発信拠点として観光案内機能を担うとともに、地場産品の販売やさまざまなイベントを通じて地域の魅力を発信しています。近隣の商業施設との相乗効果により、平日も含め多くの来訪者で賑わい、年間約210万人が訪れる場となっています。また、川の駅は、アウトドア体験や防

災学習など、多様な機能を持つ複合拠点となっています。こうした取組は、単なる観光施設にとどまらず、交流人口・関係人口の創出に大きな役割を果たしています。

## ▼かんなみ猫おどり

函南といえば、奇祭で有名な猫おどり。近年では、町の一大イベントであるこの「かんなみ猫おどり」も川の駅で開催しています。

「言葉を話す猫たちが笛を吹いて踊っていた」という民話が丹那盆地周辺で伝えられ、この伝承を元に、町おこしの一環として始まったのが「かんなみ猫おどり」です。お祭り当日は、こどもから大人まで、猫メイクやコスプレで猫になりきって踊ります。



▲大人も可愛く猫メイク

## 4. 安心・安全なまちづくり

町内に複数の河川が流れる地形的な特性から、台風や大雨の際には山間部に降った雨が一気に平地へと流れ込み、これまで幾度も水害に見舞われてきました。過去の被害を教訓に、治水対策にも重点を置き、河川改修や排水機場の整備・機能強化を重点的に進めています。現在、機場の操作は地元消防団や地域住民が担っていますが、急激に水位が上昇した際には危険が伴うことから、国・県と連携し遠隔化の導入に向けて取り組み、安全性の向上に迅速な対応体制の確立を図っています。

## 5. 子育て・教育支援

安心してこどもを産み育てられる環境づくりとして、地域ぐるみの子育て支援に取り組んでいます。その中心施設となるのが、子育て交流センターと図書館の複合施設である「かんなみ知恵の和館」です。

図書館では、こども図書館の設置や大型紙芝居をはじめとするこども向けサービスを充実させ、子育て交流センターは、赤ちゃんからお年寄りまでが気軽に集い、交流や相談ができる場所として町内外の多くの家庭に利用されています。

フォーラム



▲かんなみ知恵の和館



▲内田篤人さんのサッカー教室



▲柏谷横穴群を有する柏谷公園

図っていきます。

引き続き、住む人にも訪れる人にも愛されるまちとなるよう、この地で育まれた文化や人の温かさを大切にしながら、町民が主役のまちづくりをめざしていきます。

そして、伊豆への単なる通過点ではなく、目的地としてお越しいただけるよう、さらなる交流人口・関係人口の拡大を図っていきます。

また、家庭を訪問して寄り添いながら支援を行う「ホームスタート」や、地域の会員が育児の手助けを行う「ファミリー・サポート」の仕組みを整え、日頃のちょっとした困りごとにも対応できる体制を整えています。こうした支援の積み重ねにより、子育て世帯が孤立することなく、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めています。

▼「読書のまち」・「スポーツのまち」宣言

町民の心と体の健やかな成長を支えるため、「読書のまち」「スポーツのまち」を掲げた取組を行っています。スポーツに関しては、スポーツチームとの連携により、子ども達がトップレベルのプレーを身近に感じられる機会の創出に努めています。身近なスポーツ選手の存在は、子ども達の強い憧れや目標となり、地元への愛着の醸成にもつながっています。

町制施行60周年記念事業では、函南町出身の内田篤人さんをゲストに迎え、サッカー教室を開催しました。第一線で活躍した選手とのふれあいは、子ども達にとって大きな刺激となり、心に残るかけがえのない思い出となりました。

6. 文化と歴史

東海道の道中であったことから、多くの遺跡や歴史文化が育まれてきました。国指定重要文化財である「阿弥陀三尊像」などを展示する「かんなみ仏の里美術館」や、国指定史跡で古墳時代の横穴墓である「柏谷横穴群」、国指定天然物である北伊豆地震の時に活動した「丹那断層」などの史跡が点在しています。

7. おわりに

このように、「伊豆の玄関口」という恵まれた立地のもと、自然の豊かさや多彩な地域資源を活用しながら、第六次函南町総合計画に掲げた「環境・健康・交流都市 函南」を基本理念として「よし 函南町」を基本理念としてまちづくりを進めてきました。今年度は、10年にわたる第八次函南町総合計画の最終年度となり、次期総合計画の策定の年度にもなります。

# まちむらの魅力発信!



全国926町村には、それぞれにその場所ならではの輝く資源があります。そのまち、そのむらが、今発信したい魅力を紹介していきます。



## 山形県 山辺町のニット製品

産 業  
ものづくりの伝統ある  
サマーニット発祥の地



ニットファッションショーなど  
伝統を若い世代へ継承する試みも。

江戸時代から繊維産業の下地があった山辺町。その伝統を引き継ぎ、今もじゅうたんやニットの事業者が高品質でおしゃれな製品を生産しています。

昭和30年代、日本で初めてサマーニットを作ったのも山辺町のニット事業者。それまで秋冬限定だったニットが、夏にも着られるファッションアイテムとして全国的に定着するきっかけをつくりました。

山辺町のニットは根強い人気で、毎年11月3日(文化の日)に開催される「やまのべ・まるごと・フェスティバル」などでのニット製品即売会には、仙台をはじめとする県外からも多くのファンが訪れるのだとか。昨年は、高校生や親子などがモデルを務めたニットファッションショーも開催され、ニットをはじめとするものづくりで町を盛り上げようと町民一体で取り組んでいます。

## 岐阜県 岐南町の子育て支援

移住定住  
若い世代が住み続けたい  
町をめざして



「子育てサロン」には、広いキッズスペースがあるカフェも併設。

半径2kmの町の中央部を国道21号と22号が交差し、岐阜市や名古屋市にもアクセスがよい岐南町。多くの人が行き交うコンパクトなこの町は、若い世代の転入者が多く、合計特殊出生率は岐阜県内1位の1.74。また、生産年齢人口も増加傾向です。

しかし人の行き来が活発で転入者が多い一方、転出者も多いことが課題。そこで町では、岐南町に住み始めた子育て世代が安心して暮らしていけるよう、子育て支援に力を入れています。0歳から高校生までの医療費無償化のほか、他の自治体に先駆けて10年以上前から小中学校の給食費を無償化。また、就園前の子どもと保護者が気軽に集まれる「子育てサロン」を3か所に設けるなど、町に愛着を持って長く住み続けられるまちづくりをめざしています。

## 佐賀県 基山町の kiyamaプライド

史 跡  
日本最古の朝鮮式山城  
国指定特別史跡「基肆城跡」



町のシンボル「基山」にある  
「基肆城跡」と「基山草スキー場」。

佐賀県の東端部、福岡県との県境に位置する基山町は古くから交通の要衝となっている町です。

町のシンボル「基山」は、博多湾や筑紫平野、遠くは雲仙普賢岳まで一望でき、日本書紀にもその由来が記されている古代山城、「基肆城跡」があります。また、山頂一帯に希少植物「オキナグサ」が自生していたり、草スキーができたりと、歴史と登山、植物やレジャーを楽しむ人で1年中賑わっています。

町では、基山の歴史や自然を未来に残そうと、町民も積極的に保存・活用に取り組んでいて、ボランティアの清掃活動、オキナグサを保護する保存会、歴史を解説しながらの登山会、子どもたちが中心となる創作劇などの団体が活動しています。町のシンボル基山をはじめとして、基山町を愛し、誇りに思うkiyamaプライドが町民の間で育まれています。

# 町村

# ご当地キャラじまん

Vol.192

長野県平谷村



特産品だけじゃない！

文化・歴史を身にまとして観光大使！！

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。

日本三名瀑のひとつで、国指定名勝の「袋田の滝」で知られる大子町は、茨城県最北西部に位置しています。「袋田の滝」をPRするため、老若男女に愛されるキャラクターを誕生させるべく、2011年に全国から作品を募り、2012年3月4日に誕生したのが、「たき丸」です。帽子には、勢いよくしぶきをあげて流れる「袋田の滝」、春の「桜」、秋の「もみじの葉」を描くことで豊かな自然を表現し、水のきれいな久慈川で育った「鮎」、糖度が高く蜜の入った「奥久慈りんご」といった大子町の特産品もあしらっています。名前には、大子町に住む人と大子町を訪れる人がひとつの丸い輪となつてつながつていくような意味も込められています。「たき丸」は、「袋田の滝」のPRはもちろん、大子町の魅力を広く知ってもらうため、PR活動を行っています。

袋田の滝キャラクター

たき丸



3月4日生まれ。いつも明るく元気いっぱい！チャレンジ精神旺盛で、人を楽しませることが大好き。趣味は温泉巡りと食べ歩き。好物は、鮎、奥久慈りんご、奥久慈大子こんにやく、奥久慈しゃも、奥久慈茶。



嵐山町マスコットキャラクター

むさし嵐丸

埼玉県嵐山町



嵐山町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、山や平地など変化に富んだ自然豊かな町で、平安末期から鎌倉時代にかけて日本史に名を刻んだ坂東武者ゆかりの地でもあります。2011年に誕生した「むさし嵐丸」は、町内在住在勤の方々へのデザイン公募により、147点の応募作品の中から選ばれ、愛称も公募から決定しました。頭には嵐山町が保護に力を入れている国蝶「オオムラサキ」を模した兜型の帽子をかぶり、胸には町名から「嵐」の文字を入れた武士の姿をしています。毎年11月に開催される町最大の産業祭「嵐山まつり」でお披露目されてからは、毎年同お祭りのイベントステージでお誕生日会を開催し、得意のダンスを披露しています。時には町外のイベントにも出演し、ダンスを踊ったり、チラシを配ったり等、嵐山町の魅力発信に力をいれています。



11月6日生まれのやんちゃな男の子。趣味は虫取りと「千年の苑ラベンダー園」でのラベンダー摘み。特技はダンス。好きな食べ物は、辛モツ焼きそば、肉汁うどん、嵐丸焼き。

平谷村公式キャラクター

ちんえもんくん

長野県平谷村



笑顔を決やさず、いつでもなんでも楽しめちゃう男の子。悲しいときでも笑っちゃうのがたまにキズ。趣味は、釣り、スキー、平谷の温泉につかること。特技は頭にあるひまわりのちょんまげアンテナで楽しい情報をキャッチしちゃうこと。

長野県の南端に位置する平谷村は、平谷高原をはじめ、大自然を満喫できる観光スポーツがたくさんある村です。戦国時代に「塩の道」として知られた三州街道や伊那街道の宿場として栄えた村をPRするさまざまな取組を行っています。そんな平谷村の村長の名代として2010年に誕生したのが「ちんえもんくん」です。珍しいモノを食べ、珍しいコトを体験することを日々の目標としている元気な男の子で、平谷村を象徴する「ひまわり」をモチーフとし、顔は村章をデザイン化したものになっています。夏には約1万本の「ひまわり」が咲き誇る「ひまわり畑」で実施される「ひまわり迷路」や冬に平谷温泉「ひまわりの湯」周辺で行われる「ひまわりの森イルミネーション」等、村内のイベントには積極的に参加し、村民や観光客との交流を楽しんでいます。

情 報

第59回  
『都市問題』  
公開講座

（公財）後藤・安田記念東京都市研究所（旧・東京市政調査会）  
「原発事故被災地における暮らしの  
再生―東日本大震災15年―」

地域・立場の人ひとに語っていただく。

日程・会場

2026年6月20日（土）

13:00～16:00（開場12:30）

日本プレスセンター 10階ホール

〒100-0001

東京都千代田区内幸町2-2-1

出演者

基調講演

門馬和夫（南相馬市長）

パネルディスカッション

小林 奈保子（いわき・双葉の子育て応援「ミニミニコハナ」共同代表）

下枝 浩徳（一般社団法人葛力創造舎代表理事、東北芸術工科大学専任講師）

渡部 正勝（おおくまふるさと塾塾長）

△司会▽田中正人（追手門学院大学地域創造学部教授）

参加費

無料

参加申込み

後藤・安田記念東京都市研究所ホームページ（https://www.timr.or.jp/）

（申込み期限）2026年6月18日（木）

※満席となりしだい受付を終了します。

問合せ先

後藤・安田記念東京都市研究所

TEL: 03-1359-1112

TEL: 03-1359-1120

FAX: 03-1359-1120

『都市問題』公開講座は、公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所の発行する月刊誌『都市問題』の特集などから時宜し適ったテーマを選び開催しています。第59回は次のような趣旨により「原発事故被災地における暮らしの再生―東日本大震災15年―」をテーマとして開催いたします。

東日本大震災の発生から15年が経過する。津波被災地では復興事業がほぼ完了し、市街地の再建とともに「まちのつくり直し」という新たな段階に入っている。一方、原発事故により住民が避難を余儀なくされた地域では、除染や生活インフラの整備が進められ、避難指示の解除が段階的に行われてきたが、帰還する人、他の地域で生活を続ける人、新たに移住する人など、住民の選択や暮らし方は一様ではない。

本企画では、原発事故により避難指示が出されていた地域に帰還した住民／移住してきた住民の暮らしや、地域コミュニティの現在の焦点を当てる。住民一人ひとりの選択や葛藤、地域の変容に目を向け、いかにして被災の現実に向き合い、地域の暮らしを取り戻そうとしてきたのか、そして、これからのように暮らしを紡ぎ直していくのかについて、複数の

ご活用ください！町村専用ページ「町村.com」

https://www.zck.or.jp/choson/

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員の皆さまの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁等の政策情報を随時ご提供し、町村関係者にとって役立つWebサイトとなることをめざし、これからも充実を図ってまいります。ご感想・ご意見は、下記のメールアドレスにお寄せください。



「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。

ログイン時のユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ（平成18年9月27日付）しております。お問い合わせは、全国町村会広報部(kouhou@zck.or.jp)までお願いいたします。

詳しくは Webへ



お問い合わせはこちら





### 山梨・早川で「科学者」育成教育 アの自然活用、英語強化 町移住や山 村留学促進

(山梨県早川町)

山梨県早川町は本年度、自然科学の探究型学習と英語を組み合わせた体験型教育プログラム「プロジェクト・ダーウィン」を早川北小に導入した。南アルプスを自然の「理科室」に見立て、将来的に校内では英語を日常会話の「公用語」としたい考え。町内3小中のうち、早川南小と早川中でも特色を生かした同様のプログラムを導入する。「日本一人口が少ない町」で高度な探究教育を展開し、移住や山村留学の促進につなげる。

町教委などによると、プログラムのテーマは「南アルプスをフィールドにした本物の科学と英語を楽しむ教育」。ダーウィンのような科学者を誕生させたい、との狙いでプログラム名を決めた。児童数5人で、国内最小規模の早川北小で導入した。

自然科学の探究学習では、児童が南アルプス昆野鳥公園(同町黒桂)の研究者のサポートを受けながら動植物の生態などを観察・記録し、仮説を立てて実験などを行い、検証結果を発表する。

英語学習については、これまで外国語指

導助手(ALT)1人が町内3校を担当していたが、本年度は増員して早川北小に常駐させた。ALTが休み時間や給食中に児童と関わり、自然な日常会話を身に付けてもらう。また、朝の会は段階的に英語で実施し、最近の出来事を発表する時間も設けた。

町は2003年に全国に先駆けて山村留学制度を導入したほか、12年には義務教育関連経費や給食費を無償化し、子育て世代の移住を促してきた。しかし、全国で同様の取り組みが進んで差別化が困難になり、早川北小の児童は10年前の14人から5人に減少した。独自性のある新たな教育プログラムをつくることで、山村留学の増加や移住・定住の促進、関係人口の創出につなげる。

町内の残り2校でも今後、各校の特色を生かした探究型学習と英語を組み合わせた教育プログラムを提供する。8月にはプロジェクトを体験できる「親子サイエンスキャンプ」を4泊5日の日程で開く。ムササビの生態調査や獣道の調査、星空観察のほか、ALTとの交流を予定している。

12日に深沢肇町長が県庁で会見し、プロジェクトの概要を説明した。深沢町長は「自然科学と英語は、論理的思考力やグローバルな視点を養う上で不可欠な資質。プログラムを山村留学制度を再出発させる事業に位置づけ、子ども一人一人が主役になれる学びの環境を提供したい」と話した。

同町草塩の農業望月弘さん(70)はプログラムについて「早川町でしか受けられない特色ある教育によって、山村留学が活発になれば喜ばしい」と歓迎した。町内の50代男性は「山村留学で町内に来て、高校

進学を期に町外へ出てしまうこともある。教育環境と同時に雇用創出も必要だ」と話した。

(2026年5月13日・山梨日日新聞)

### うちの山の木、いくらかな 長野県南 相木村、販売収益試算システムを開発 適期の伐採、促す狙い

(長野県南相木村)

あなたの森林はおいくら?。長野県南佐久郡南相木村が、村内の一定範囲の木を伐採して得られる金額を試算するシステムを独自に開発した。村内のカラマツは伐採に適した「伐期」を迎えている。所有者に森林の価値を知ってもらい、伐採・再造林の次のサイクルにつなげる狙い。県によると、こうした取り組みは県内自治体では初めてという。

村の森林面積は5890ヘクタールで、民有林は6割余の3812ヘクタール。カラマツは2283ヘクタールで、民有林の6割を占めている。多くは戦後の「拡大造林」の時代に植樹され、伐期に入っている。強度が高く、住宅の柱やはりなどの構造材として利用されることが多い。

村によると、森林所有者は伐採から運搬、販売にかかる経費と、実際の販売価格の差が分からず、伐採・活用をためらうケースがある。伐期を過ぎて放置すると腐ったり成長しすぎたりする。山林を健全な状態に保ち次世代に引き継ぐこともできなくなる。

だが県信州の木活用課によると、2021年に世界的な木材価格の高騰(ウッドショック)が起こり、その後も建

築資材が高値で推移。国産材の活用には追い風が吹いている。

そこで村は、村の林政アドバイザーで林業普及指導員の資格を持つ坂本皓太さん(37)＝南佐久郡北相木村＝に相談。「自分の山について何も知らず、放置してしまうのは一番よくない」と話す坂本さんの助言を受け、森林を伐採して販売した場合の収益を試算するシステムを作った。

システムは村役場のパソコンで利用する。利用者(森林所有者)はまず地図上で森林の範囲を指定する。システムはその場所の樹種と本数、傾斜度を基に、得られる木材の本数をおおまかに計算。その本数を近年の村有林の伐採・販売実績に当てはめ、収益を計算する。ある山林約1.4ヘクタールを伐採したと試算したケースでは、販売で529万円が得られる一方、事業費として411万円かかり、118万円の利益になる――との試算が得られた。

システム会社に外注せず、坂本さんと村振興課の田村祐也さん(32)が構築した。田村さんは「適切な時期に伐採した後、植林して次の世代につなげていくことが必要。森林所有者に関心を深めてもらえたらうれしい」と話している。

(2026年5月3日・信濃毎日新聞)

47 行政  
本コーナーの記事は施策立案にも役立つ47行政ジャーナルの許諾を受けて掲載しています。  
<https://47gyosei.jp/>

## 地方公共団体金融機構

## JFMでは資金調達や資金運用等について 出前講座・実務支援（個別相談）を実施しています

自治体ファイナンス・アドバイザー（金融機関・自治体出身のJFM職員）等が  
地方公共団体の費用負担なしで資金調達や資金運用についての講義やアドバイスをを行います。

### 出前講座

- ✓ 自治体ファイナンス・アドバイザー等が、実際に地方公共団体を訪問し団体の要望に応じた時間、場所、内容で講義を実施します
- ✓ 方法は対面・オンラインどちらでも対応可能です

#### ▼主なテーマ

#### 資金調達

- 地方債の金利の見方
- 銀行等引受債の借入交渉のポイント
- 住民参加型市場公募債

#### 資金運用

- 資金運用のリスクと管理  
資金運用の法令と運用商品、預金の商品性とリスク管理、債券の商品性とリスク管理、債券運用の手法

#### 金融・経済

- 銀行の現状と指定金融機関
- 日本経済と金利の動向

#### 財政関連

- 財政分析と地方債管理
- 財政収支見通しと人件費の長期推計
- 公営企業改革と公営企業決算の見方

### 実務支援（個別相談）

- ✓ 自治体ファイナンス・アドバイザー等が資金調達や資金運用などに関する具体的な課題や疑問の解決に向けて専門的なアドバイスを実施します
- ✓ 方法は電話、メール、オンラインのほか現地での相談にも対応します

#### 相談事例

- ・ 金利見直し方式のメリットやデメリットは？銀行等とどう交渉すればよいか？
- ・ 債券による運用を始めるための体制整備を進めたいが、助言をもらえないか？
- ・ 金融機関から手数料引き上げについて依頼があったが何か特別な背景があるのか？

金融についての小さな疑問でもお気軽にご相談ください。  
Webサイトに過去の相談事例を掲載しています。こちらをご覧ください。



- 支援の詳細や実施までの流れは機構Webサイトでご確認ください。  
<https://www.jfm.go.jp/support/development/index.html>

電話・メールで申込を受付しています  
お気軽にお問合せください

地方支援部ファイナンス支援課  
☎ 03-3539-2677 ✉ [finance@jfm.go.jp](mailto:finance@jfm.go.jp)

JFM 出前講座/実務支援

検索



随 想

西郷隆盛の五言律詩の一節で、「厳しい雪に耐えてこそ、梅の花は可憐に美しく咲く」といふ、私の好きな言葉です。

設楽町は、愛知県の北東部、東三河地域に位置し、豊川、矢作川、天竜川、3水系の水源になっており、町の90%以上が山林に囲まれた、森と水が調和した自然豊かな美しい町です。

昭和・平成の大合併を経て、今年、合併20周年を迎えました。合併時の

外すことは出来ません。この原稿を書いている今、設楽町がある東三河地域は、昨年来の降水量の激減により深刻な水不足となり、連日、全国ネットのニュースで報道される状況になっていますが、この設楽ダム

建設は、これまで幾多の水不足を経験してきた東三河地域の総意として下流域から要請を受けたものです。現在、国、県により鋭意進められていますが、計画当初は、町を挙げてダム建設反対でした。その後、本

なり、多くの先人の皆さんの、本当に長い年月を費やした葛藤や、気の遠くなるような話し合いの時を経た決断は、今日に至る町の歴史だと思っています。そして、この平成21

年の調印に際し、設楽町議会として受け入れの賛否を問う議決がされました。私自身も、当時、議会議員として、多くのテレビカメラや報道陣の中で、緊張感を持って起立した時のことを、大変、鮮明に覚えています。

ものが根底にあります。

そして今、設楽ダムの完成を8年後に控え、多くの確約事項の履行、具現化を図る時を迎えています。53年という長い時の経過は、さまざまな一面を見せてくれます。時代の変化・進化と共に可能になるもの、逆に、時代の変化・進化と共に厳しくなるものといういろいろありますが、一番難しく感じるのは人の思いです。現在の住民の皆さん、そして役場の職員もそうですが、年月の経過と共に、設楽ダム調印前の住民の皆さんの思いを知らない人が増えていきます。これは、調印時に定めた確約事項の履行にも影響し、必要性を問う人も出てきます。



耐雪梅花麗

(ゆきにたえばいかうるわし)

愛知県設楽町長

土屋 浩



人口は6,300人、そして現在では4,000人と過疎化、高齢化の中で、いかに将来像を描いて行くか、という課題を持つ町です。元々の町の主要な産業は林業で、昭和の40年頃までは、木材を都市部に搬出する鉄道網も整備されていましたが、長引く林業の不振に伴い、鉄道も廃線となり、町の在り方も大きく変わって行くこととなりました。

設楽ダム

この町を語る時、設楽ダム事業を

にさまざまな場面がありました。町の将来の姿を描くと共に、東三河地域一帯の発展に資することをめざし、設楽ダム建設事業を受け入れる、という方向に転じてきました。この

間、昭和48年のダム建設の申し入れから調印までに36年、平成21年の調印から今日までに17年、併せて53年という長い年月の経過をみています。調印に際しダム受け入れを「苦渋の決断」という言葉で表現されました。124世帯が水没移転対象と

森と水のちからと人の営みが調和するくらしと出合いのまち

これは、設楽町総合計画の中に定められている、町がめざす将来像です。設楽ダム受け入れの原点は、「設楽ダム事業を起爆剤に、町の活性化につなげる」というもので、その時々の方が町の将来像を描き、その達成に向けて、調印の条件となる確約事項を定め、調印がされました。この将来像には、先人の皆さんが多くの時間を掛け、議論を積み重ねてきた

私自身、町政を担わせて頂く所に立ち位置が変わりましたが、設楽ダム調印前の住民の皆さんの思いを、辛うじて知る者の一人であります。先人の思いを引き継ぎ、将来世代に負担を強いられることの無い時代に合ったものとし、しっかりと創り上げていくという役割を考へる時、この重責に身の引き締まる思いがします。耐雪梅花麗にある、「可憐に美しい花を咲かせる」。長い歴史をつないできた設楽町ですが、今、まさにその時だと思っています。今こそ、住民の皆さんと思いをひとつにして、立派な花を咲かせたいと思っています。